



私の3冊

猪川まゆみ

後輩に薦める 2 冊

山田規畝子（著）

壊れた脳 生存する知 講談社，2004 年発行

高次脳機能障害を評価するスケールは RCPM，コース立方体，WAIS-III といろいろあるが，この評価結果だけでは，高次脳機能障害を有する患者様の症状や理解の程度はひとそれぞれであり，全体像がなかなか理解できずにかかわり方に困っていた。この本に出会って初めて，高次脳機能障害の患者がどのような考え方をし、どのような苦しい体験をされているのかを理解することができ、苦しい体験をされている患者の心に寄り添う大切さを改めて学んだ。

谷川正浩・一宮禎美（著）

リハと看護の協働—22 のコツ 三輪書店，2012 年発行

回復期リハビリテーション病棟で働いていると，とても悩ましいのが多職種連携である。職種が違くと患者への視点や捉え方が違い，ディスカッションしていても意見の合意が得られずに決裂したままで終わってしまうこともある。この本では，リハビリテーション看護の強み，セラピストの強みを十分に活かすための協働の仕方が事例を通してわかりやすく紹介されている。

自分の 1 冊

アメリカリハビリテーション看護師協会（著），奥宮暁子，宮腰由紀子（監訳）

リハビリテーション専門看護—その活動範囲と実践基準

日本看護協会出版会，2003 年発行

昨今，リハビリテーション看護についてはさまざまな文献があるが，私が回復期リハビリテーション病棟にかかわり始めた当時は限られており，どれを読んでも，「それでリハビリテーション看護って何を実践すればいいのか？」という疑問に答えを見出せなかった時に会った本。リハビリテーション看護について，具体的にわかりやすく表現されており，わからなかったり迷った時に原点に戻ることができる 1 冊です。

■ いかわ・まゆみ 看護師 33 年目 珪山会鶴飼リハビリテーション病院副看護部長，回復期リハビリテーション看護介護委員
大学病院で急性期を経験後，訪問看護制度がまだない時代に自宅で看取りをするターミナル患者の訪問看護を経験。1999 年に新設の病院で看護部長を担っていたときに，院長より私の病棟を回復期リハビリテーション病棟にすると突然いわれた。リハビリテーションやリハビリテーション看護についてまったく知識がなかった私ががむしゃらに読んだ本のなかで，リハビリテーション看護について納得した 1 冊と，その後，患者の理解および多職種協働の理解に役立った 2 冊をお薦めします。